令和５年度　上京区地域保健推進協議会　概要

日　　時　　令和５年９月２９日（金）午後２時から午後３時３０分
場　　所　　上京区総合庁舎　４階大会議室２
出席委員　　飯田委員、田中委員、松尾委員、松下委員、藤本委員、宮崎委員
　　原田委員(代理)、杉本委員(代理)、赤井委員、金築委員、関委員、
　　湯浅委員、穴澤委員

＜開会挨拶＞小石保健福祉センター長

＜議題（１）上京区役所保健福祉センター事業について＞
・健康づくり事業・感染症について（健康長寿推進課　荒木担当課長）
・精神保健福祉・難病保健事業について（障害保健福祉課　西村課長）
・母子保健福祉事業について（子どもはぐくみ室　出原課長）

＜議題（２）意見交換＞

飯田委員：
健康長寿推進課の説明についてだが、糖尿病発症、とりわけ重症化予防の取組に引き続き御尽力いただきたい。京都府医師会でも重症化予防を各部署でずっと取り組んでいる。
また、がん検診受診率の低さについてだが、10 年前に前立腺がん検診が始まったが、受診率が低く去年においても 2、3 パーセントである。その理由の一つとして自己負担率が高いことがあげられる。京都府下では数百円で行われているが、京都市はまだ 1500 円である。自己負担率の軽減を再度検討いただきたい。
特定健診についてだが、京都府医師会が各医師会を通じてアンケートをとると、小学校での開催を強く希望する意見が非常に多い。小学校での開催に比べると区役所のみの開催では受診者層が絞られてしまい、健診機会を失う方が多い。今後は小学校と区役所のハイブリッド開催を検討する等、受診者数を増やす方法を考えていただきたい。

荒木担当課長：
糖尿病重症化予防については、令和 6 年度の事業計画の中で健康教室等しっかり取り組みたいと考えている。がん検診の受診率の低さ及び自己負担率の軽

減については、保健所支所だけではどうすることもできないため、本庁との協議においてこういった御意見があることを伝えて検討してもらえるよう働きかけたい。
　特定健診については、現在も小学校で開催ができないか議論がなされている。来年度については難しいと聞いているが、今後も本庁には伝えていきたい。

原田委員：
　警察では、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、児童の家出事案、高齢者の行方不明事案等で 24 時間対応しており、必要であれば区役所各部署に対応していただいたり情報共有したりとお世話になっている。家庭内に警察は入らないという時代があったが、現在はＤＶやストーカーに警察も対応しており、児童虐待で現行犯逮捕をすることもある。
　また、最近は特殊詐欺の被害が多い。京都府下で増加傾向であり、被害額は 4 億を超えている。全国では 1 日 1 億円である。高齢者が集まるような機会があれば電話一本で話をしに行くので連絡をいただければと思う。

金築委員：
　前立腺がんの検診は採血で簡単にできる。ぜひとも取り組みを進めていただきたい。上京警察署の方の話にもあったように子どもから高齢者まで色々な問題が発生している。上京区は高齢者が多く、詐欺の話も近所でよく聞かれるので色々な場面で色々な方の話に耳を傾けていただきたいと思う。

藤本委員：
　上京区における要介護認定率が市内で一番高いという点について、ネガティブな捉え方で先ほど保健福祉センターから説明をいただいた。大学病院で勤務をしていると、大変な状況の中、全く介護のサポートを受けられておらず、病院からお声かけする患者さんが多いので、認定率が高いのはとりこぼしがないという意味で逆にいいことではないかとも思う。要介護度が下がっていくことが良い取組となったりもするので、その割合の経過を一緒にみていかれたらよいかと思う。

湯浅委員：
　上京区では老人福祉員が 100 人ほどおり、訪問活動を必死にやっているが、上京区の要介護認定率が高いという統計に最初はショックを受けていた。しかし、重度介護者が多いと困るのだが、介護率が高いこと自体は悪くないことだと感じる。介護サービスを利用していれば、早くに危険を察知でき、安心して生活できるの良いのではと今は気を強く持っている。

荒木担当課長：
　要介護認定率の高さについて、今までマイナスでとらえていたため、良い御意見をいただけたと思う。地域包括支援センターやケアマネージャーの方々に一生懸命に取り組んでいただいており草の根的に家庭訪問をしていただいている。また、地域の民生委員や老人福祉員の方々も地域包括支援センターと連携をとっていただき情報共有をしていると伺っている。とりこぼしがない数値なのかもしれない。介護ケア推進課と情報共有しながら、詳しいところも調べてみたいと思う。こういった御意見は地域包括支援センターとの運営協議会の中でも報告していきたい。

宮崎委員：
　今日の資料の中にもあるように生まれる前のお腹にいる赤ちゃんの時から食事というのは 1 日 3 回 365 日食べ続けていくことがとても大事である。オーラルフレイル予防も最近クローズアップされている。看護師、保健師、衛生士、歯科医師、医師会、リハビリの方々とも協力して取り組んでおり、病院や施設に勤めていなくても区内の地域で個別に動いている栄養士もたくさんいる。地域包括支援センターがらみでは介護認定を受けている方の訪問栄養指導も増えてきている。生まれる前から亡くなる直前まで食事に関して栄養士が活動しているので、色々お声かけいただき相談いただいて根本的な体の元気さを見直していただきたい。